

洪水対応演習



能代河川国道事務所では5月13日に、本格的な出水期を前に大規模な出水・堤防決壊等の重大災害を想定した「洪水対応演習」を行いました。

米代川には、水害を未然に防ぐために、さまざまな施設が設けられ、各機関によって水防の努力が続けられています。しかし、水害が発生した場合には、私たち一人ひとりの水害に対する心がまえや準備が、何よりも重要になってきます。

洪水対策として最も重要なものは、私たち自身の日頃からの備えなのです。

洪水って何だろう？

いつもは静かに流れている川でも、大雨が降ったりすると、川の水があふれることがあります。道路や田んぼ、人が住んでいるところに水が溢れてきて、家が流されてしまう事もあります。このように川の水の量が普段よりも多くなったり溢れてしまうことを洪水と呼びます。

洪水の時はどんなことが起きる？

洪水が起きると家が流されたり、田んぼや畑が水浸しになったりと、私たちのくらしに大きな被害をもたらします。道路や橋、線路、電柱などが破壊され、普段の生活が送れなくなることもあります。そして、洪水は、時に人の命をも奪うことがあるのです。

家が水に浸かる4つの段階

床下浸水（基盤～50cm） 0～0.5メートル
家の床の下まで水がきます。大人の膝まで浸かり、子どもが歩くのは難しくなります。



床上浸水（50cm～1m） 0.5～1メートル
家の床の上まで水がきます。大人の腰まで浸かり、歩くのは難しくなります。



床上浸水（1m～2m） 1～2メートル
家の1階半分は沈んでしまっています。



床上浸水（2m～） 2メートル以上
家の1階は水の中に沈んでしまっています。



浸水深と自動車走行



0～10cm	走行に関し、問題はない。
10～30cm	ブレーキ性能が低下し、安全な場所へ車を移動させる必要がある。
30～50cm	エンジンが停止し、車から退出を図らなければならない。
50cm～	車が浮き、また、パワーウィンドウ付きの車では車の中に閉じ込められてしまい、車とともに流され非常に危険な状態となる。

避難の際に注意すべきこと

正確な情報収集と早めの避難を

テレビ、ラジオ等で最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。各市町村の避難指示に従って行動しましょう。



避難前に忘れずに！

家を出る前にブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めるなど、火の元を確認しましょう。



浸水した足元は危険です

浸水した道路では、足元が見えにくくなります。浸水する前に早めに避難しましょう。また浸水したら、無理に避難せず、高い場所へ避難しましょう。避難の際は、単独行動は避けましょう。



動きやすい格好で

長靴ではなく、普段はき慣れた靴で。目立つ色のレインコート、軍手、頭部を保護できるヘルメット(なければタオルを頭にのせて帽子を被る)など。



編集後記

新緑に癒されつつ山菜に目を光らせていた春も、もう終わりに近づいています。ここ数年で山菜に興味を持ち始めた私は未だに山菜の見分けもつかず、食べたことのないものも沢山あります。まだまだ勉強中ですが、今年は実際に山で山菜を見つけることができて、大満足でした！（は）

